



日常生活の一つ一つが進路への道

高等部主事 館山百合子

今年度コロナ禍の状況で、現場実習が後期のみとなりました。実習の事前には、一人一人が生活や作業面で頑張ることを「決意式」で発表します。実習の事後には、実習を振り返る「報告式」があり、頑張ったこと、課題を個々に発表します。どちらの式も初めての1年生だけではなく2、3年生にとっても緊張する場面です。今回は、その時に話したことを織り交ぜて記載させていただきます

『**あたりまえのことをあたりまえに**』・・・日常的なあいさつ、感謝のありがとう、間違っただけのごめんなさい等、周りの人と仲良く、楽しく過ごすための一番基本となる大事なことです。このあたりまえのことが、場所や、環境が変わると難しい場合があります。普段から忘れずにあいさつをしたり、しっかり社会的なマナーができていたりする人は、どこに行ってもできるはずで。家庭内でも、日常的なあいさつを習慣化することを大事にしていってください。

『**自分の武器を増やす**』・・・ここは、人には負けない！いつでもどこでもあいさつができる。体力には自信がある。真面目に作業ができる。みんなと仲良く過ごすことができるとか。必ず一人一人に大きな武器（いい部分）があります。実習で得た課題に向き合いながら、自分の武器を増やして欲しいと願っています。武器をたくさん持っている人は、自信に繋がり、次のチャレンジへの意欲にも繋がります。親御さんもいいところを、しっかり伝えてあげてください。

『**なりたい自分を描く**』・・・高等部卒業後、自分はどんな生活をしたいのか。どんな仕事をしたのか。具体的に描いてください。進路も、生活もなんとなくかなると思っていると、進路は決まりません。なりたい自分に近づくためにも今からできることがあるはずで。自分はこうなりたい、我が子にはこんな生活をして欲しいと思い描いていると、実習先の見方、考え方がわかるかもしれません。漠然とでも普段から描いてみてください。思いがあればきっと思いの方に近づいていくはずで。



普段から本気を出していないと、ここぞというときに、本気を出すことができません。なぜなら、力の出し方が分からないからです。頑張るエネルギーの源である保護者の皆様の励ましがあれば、普段から頑張る努力をすることと思います。普段の生活、態度が卒業時の進路、生活に繋がっていることを、あらためて確認していきたいものです。

今年1年、ご協力ありがとうございました。

明るく楽しいお正月でありますように・・・次年度もよろしくお祈りします。

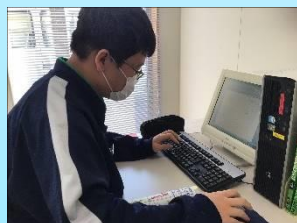
高等部 後期現場実習

11月9日（月）～20日（金）までの10日間、後期現場実習を行い、高等部1、2年生が働く大切さや大変さを学ぶために、実際に現場に伺い働く経験をさせていただきました。

1年生は、現場での実習を初めて行い、学校とは違う環境で過ごすことや、仕事に向かう姿勢や態度について実体験を通して学びました。初めて電車やバスを利用した生徒もあり、できることが増える良い機会になりました。

2年生は、新型コロナウイルスの影響で、今年初めての实習となりましたが、日頃、学習して学んでいる成果を発揮できた生徒も多く、自分自身の進路選択につながるための貴重な経験をすることができました。

今回の実習を通して、働くために何が必要か、学校生活では今後どのようなことを頑張ればよいのかを確認し、実習後の学習に取り組んでいます。



秋田県特別支援学校職業教育フェア（県央地区）

12月8日（火）に、ゆり支援学校を会場に県央地区の職業教育フェアが開催されました。今年は新型コロナウイルス感染症の影響があり、規模を縮小して技能競技大会「錬成会」のみの実施となりました。「錬成会」では、「ビルクリーニング競技」と「喫茶サービス競技」が行われ、本校からは4名の代表生徒が出場しました。緊張感の漂う会場の雰囲気でしたが、日頃の練習の成果を発揮して頑張ってきました。



《参加生徒と成績》

「ビルクリーニング競技」～1位：井澤郁斗さん

2位：岩崎陽斗さん

「喫茶サービス競技」～3位：鎌田桃心さん

4位：和合谷宥那さん

